

04

[Report]

短期大学部 英文学科

マードック大学の学生とともに
観光とホスピタリティを学びました

05

06

[学生たちの素顔]

短期大学部生活創造学科2年 山本 楓果 さん
フットサルで北海道から世界を目指す。

07

[先生たちのその素顔]

文学部英文学科 トムソン・ロバート・ジョン 先生
好奇心が原動力! トムソン流・地球の遊び方。

08

[OB&OG インタビュー／卒業生は、いま。]

「余市 SAGRA」オーナー 村井 啓人 さん
地域で紡ぐ豊穡のサイクル。「余市 SAGRA」の挑戦。

09

[Home Coming Day]

母校に同窓生が集合!
北星の輪が広がる「ホームカミングデー」

10

[HOKUSEI CAMPUS NEWS]

- 循環型農園「エコファーム」の取り組みが実を結びました
- ディズニーワールドと連携した「バレンシア国際カレッジプログラム」に本学学生が2名合格

11

[学生広報委員 企画ページ]

オープンユニバーシティのご紹介。

12

[HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ]

北海道後志総合振興局と短期大学部が「グローバル人材育成に係る連携協定」を締結

[まがいがさがしクイズ]

北星学園大学オリジナルグッズが当たる!



さっぽろ創成スクエア内の HTB 新社屋にて

02-03

[特集] HTBエグゼクティブディレクター 藤村 忠寿さんインタビュー

テレビも仕事も、 常識なんて打ち破ったらどうでしょう?

[インタビュー]

文学部 心理・応用コミュニケーション学科3年 池田 にこ さん
経済学部 経営情報学科2年 瀧川 楓 さん



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

テレビも仕事も、常識なんて打ち破ったらどうでしょう？

今回学生たちがお話を伺ったのは、全国に熱狂的なファンを持つ人気テレビ番組『水曜どうでしょう』（HTB）のチーフディレクター（当時）、藤村忠寿さん。大泉洋さんと繰り広げるトークそのまの飄々とした語り口（ひょうひょう）に学生たちも引き込まれ、笑いの絶えないインタビューとなりました。



PROFILE

ふじむら ただひさ
藤村 忠寿

愛知県出身。北海道大学法学部卒業後、北海道テレビ入社。1996年『水曜どうでしょう』チーフディレクターに就任。現在コンテンツ事業室兼編集局クリエイティブフェローを務める。

自分たちの「面白い」を信じて突き進む

池田：『水曜どうでしょう』の放送が始まった頃、私たちはまだ生まれていませんでしたが、再放送を観ても楽しめます。番組を制作する上でどんなことを意識されていたのでしょうか？

藤村：できるだけ多くの人に面白がってもらいたいけど、万人受けする面白さなんてあり得ない。つまらない下ネタと恋愛話だけはやらないと決めていたが、それ以外のことは特に決めておらず、自分たちが面白いと思ったものに共感してくれる人がいればいいとだけ思っていた。そうは言っても予算が少ないローカル局の番組は、普通のことをしても注目してもらえない。家庭用のデジタルビデオカメラを使うと上司に言ったら「テレビ局がやることじゃない」と猛反対されたけど、自分たちは絶



対に面白いと信じていたから、適当にごまかして押し通した（笑）。それで失敗したら謝って次に進めばいいと思っていたから。そういう意味で『水どう』はそれまでタブーと思われていたことを平気でやっていたよ。

瀧川：出演者の顔にテロップがかぶったり、出演者とディレクターの会話がそのまま流れたり…今はよく見かける手法ですが、当時を知る世代の方からは「とても斬新で驚いた」と聞きます。

藤村：実は自分たちが考えたアイデアなんてないんだよ。それまで観てきた番組の中から「面白いな」と感じた手法を取り入れて、自分たちのスタイルに仕上げていっただけ。まったくのゼロから新しいものを作るなんてあり得ない。往年の名画から編集スキルを学ぶことは珍しくないし、既にあるものをうまく自分のものにしていくのがセンスじゃないかと僕は思うね。

つまらない仕事に楽しみに変わった

瀧川：いつ頃からテレビの世界を志したのですか？

藤村：志したことは一度もない（笑）。学生時代はラグビー一筋で、バブル全盛期だったから、どこでも就職できると思ってたね。そのうちHTBのバイトを始めたら報道記者と一緒に現場に行くのが面白くて、テレビ局もいいかなと。本当に志のある人は東京のキー局を目指すんだろうけど、僕は北海道で楽しみたいからHTBを受けたら受かった。

池田：就職活動で志望動機や将来の目標を聞かれたらどう答えよう、と悩んでいる私には意外なお話です…。

藤村：社会をよく知らない学生が、そんな質問に答えられなくても当然だと僕は思う。憧れの企業だって部署によって実情は全然違うし、やりたいことと違う業務を任せられることもある。社会に出る前からあまりにも具体的すぎるビジョンを持っていると、現実とのギャップに耐えられないんじゃないかと心配になるよ。僕自身、入社後は希望していた報道部に入れず、東京支社で視聴率や番組予算の計算ばかりやっていた。だから20代の頃は「仕事はつまらないもの」と思っていて、生活手段と割り切っていたんだ。そして30歳になり、制作部に異動して最初に作った番組が『水曜どうでしょう』。そこで初めて自分が統括して番組を作る楽しさを知ったんだ。『水どう』のおかげで全国的な知名度を得て人脈も広がり、テレビの枠にとどまらない仕事がどんどん増えている。今は全国を飛び回って新しい仕事を創るのが刺激的で楽し

HTB開局50周年ドラマ

チャンネルはそのまま!

【H H T V 北海道★テレビ】

2019年3月放送（連続ドラマ全5話）※Netflix独占先行配信



北海道のローカルテレビ局に入社した新人記者が不思議なパワーで周囲を巻き込んでいく痛快コメディ。札幌在住の漫画家・佐々木倫子がHTBをモデルに描いた同名コ



ミックを実写ドラマ化し、撮影にも昨年新社屋に移転したHTBの旧社屋が使用された。総監督は『踊る大捜査線』シリーズを手がけた本広克行氏、タッグを組むのは『水曜どうでしょう』でおなじみの藤村忠寿氏と嬉野雅道氏。主演の芳根京子や大泉洋をはじめとしたTEAM NACSのメンバー、鈴井貴之、東京03など芸達者な俳優陣がテレビの裏側をリアルに演じる。



いね。東京でイベントやトークショーをやったり、岡山のジーンズメーカーとコラボして新しいジーンズを作ったり。一見テレビと無縁に見えるかもしれないけど、コミュニケーションを軸としている点では、僕にとってテレビの延長線みたいなものなんだ。

他にはないものを生み出す「突破力」

池田：私たちの世代はテレビよりネットの動画を観る人が多く、実は私もテレビを持っていません。こうした状況に危機感を感じることはありますか？

藤村：ないねえ（笑）。あなたたちのような若い人がYouTubeで『水どう』を知ってテレビの再放送を観てくれたり、HTBの有料サイトや『水どう』のDVDを買ってくれるケースがたくさんあるんだ。番組を作ってスポンサーに売っただけがテレビの仕事じゃない。今はむしろテレビ局が仕事の幅を広げるチャンスじゃないかと思っているよ。

瀧川：『水どう』はテレビ番組をDVD化する手法の先駆けと聞きました。

藤村：放送した番組におまけの映像を付けて売るDVDはよくあるけど、『水どう』はDVD用にすべて編集し直しているのが大きな違いなんだ。会社には言えば無駄だと反対されるだろうけど、自分たちがやりたかったから、あれこれ理由をつけて押し通した。

池田：最初にデジカメを反対された時と同じですね（笑）。

藤村：どんな会社でも、個人のやりたいことが認められないのはよくある話。でもそこで諦めたら何も生まれなし、社内で認められる程度のものが面白いわけがない。ダメだと言われても突破して、初めて他にはないものができあがるんだ。『水どう』のDVDシリーズは完成まで15年かかったけど、売り上げは累計450万枚以上。もう会社には文句は言わせない（笑）。



経済学部 経営情報学科 2年

たきかわ かえで

瀧川 楓 さん

札幌西陵高等学校 出身

映像編集を手がけているので、番組制作のお話を興味深く伺いました。将来の目標が決まっていない私ですが「それでいい」と言ってもらってちょっと安心。藤村さんのように、やりたいことにどんどん飛び込んで行こうと思います。

文学部 心理・応用コミュニケーション学科 3年

いけだ

池田 にこ さん

函館中部高等学校 出身

就職活動を前にして今が一番楽しいと思っていたけど、藤村さんのお話を伺っていると、大人になっても楽しいことが待っていそうな気がしてきました。私の夢はネイチャーガイド。やりたい仕事を楽しめる大人になりたいです。

瀧川：今後の活動について教えてください。

藤村：3月、僕が監督を務めたHTB開局50周年記念ドラマ『チャンネルはそのまま！』が放送されます。僕も出演しますよ！ここ数年は演劇活動にも力を入れていて、今年も僕が座長を務める藤村源五郎一座（大阪）や劇団イナダ組（札幌）などの舞台に出演するので乞うご期待！

池田・瀧川：多彩なご活躍がこれからも楽しみです。本日はありがとうございました！

水曜どうでしょう

1996年10月～2002年9月放送。レギュラー出演者の鈴井貴之と大泉洋、ロケ同行ディレクターの藤村忠寿と嬉野雅道が旅をメインとしたさまざまな企画を行い、口コミで全国にファンが拡大した。現在も再放送やDVDが人気を博しているほか、数年に1本のペースで新作も制作・放送されている。



藤村さんに聞きました！

【水どうトリビア】

◎観光ついでに海外ロケ？

家庭用デジタルビデオカメラでの撮影ゆえに、オーストラリアやヨーロッパなどの海外ロケはすべて「観光」の名目で完遂。ベトナムでは規制が厳しく全行程に公安の係員が同行し、50本以上に上る録画テープも一晩押収されたが無事検閲に合格。藤村さん曰く「一晩で50本以上！絶対観てないだろ！」

◎DVDはすべて一から再編集！

放送当時はテレビカメラのテープが高価だったため、番組を編集したら素材を消去するのが当たり前でした。しかし『水どう』は家庭用デジカメの安価なテープだったのですべての映像が残っており、DVDのために一から再編集することができたそう。一昨年に完成した全シリーズDVDは累計450万枚を売り上げています。

◎『水どう』に北星キャンパスが登場？！

1998年、本学の大学祭「星学祭」に鈴井貴之さんと大泉洋さんが登場。観客をバックに撮影したカットが後日、番組のエンディングに使われました。藤村さんはこの時ディレクターとして来校。2016年と2017年には本学主催の「北星ドキュメンタリー映像祭」で審査員を務めていただいたご縁もあります。

マードック大学の学生とともに 観光とホスピタリティを学びました

2018年7月、オーストラリア・パースにあるマードック大学の学生11名(引率教員1名)が北海道を訪れ、約2週間にわたりサスティナブルツーリズム※を学びました。そのプログラムの一部に本学短期大学部英文学科の学生も帯同。観光地におけるホスピタリティを学ぶとともに、学生同士の交流を通じて英語力に磨きをかける機会となりました。

※サスティナブルツーリズム：英語で「持続可能な観光」の意味。マストツーリズムで生じやすい環境や文化の悪化、過度な商業化を避けつつ、観光地本来の姿を求めていこうとする考え方や実践を指します。

[主なスケジュール] 2018年7月

- 9日(月) 本学到着、国際ラウンジにてウェルカムレセプション
- 10日(火) 本学で日本語・日本文化を学んだ後、札幌市内観光
- 11日(水) 本学で生花と茶道体験、マードック大学教員による公開講座
- 12日(木) JRタワーホテル日航札幌にて研修
- 13日(金) 北海道博物館でアイヌ文化等を学んだ後、旭川の大雪の森ガーデンにて北海道の観光資源を見学
- 14日(土) 天塩町へ移動
- 15日(日) 寿司作り体験、着物着付け体験、ホームステイ
- 16日(月)・17日(火) 天塩厳島神社例大祭の手伝い、
ダウン・ザ・テッシー・オブ・パーススペシャル(カヌーツーリング大会)ボランティア
- 19日(木) ニセコにて後志総合振興局職員からサスティナブルツーリズムを学ぶ
- 21日(土) 洞爺湖ビジターセンター・火山科学館、昭和新山見学などジオパークについて学ぶ
- 23日(月) 帰国

● 7/9 ウェルカムレセプション

新千歳空港からバスで大谷地バスターミナルに到着したマードック大学の皆さんを学生たちがお出迎え。北星キャンパスへ案内しました。センター棟1階・国際ラウンジで開催されたウェルカムレセプションは、すべて学生が企画・運営。お菓子や軽食をつまみながら英語で会話やゲームを楽しみました。

● 7/10 英語による観光ガイドツアー

英語で札幌市内の観光地をガイドするバスツアーを実施しました。ツアーに先立ち、学生たちはプロの通訳ガイドの方から英語でガイドをしていただき、ガイドングの方法や注意点、わかりやすいガイドトークの組み立て方などを学習。それぞれ観光地の情報や英語表現などを勉強して準備しました。

北海道神宮に案内した際には、北海道の歴史や文化、神社での参拝方法などを英語で説明。札幌オリンピックミュージアムではオリンピック競技のシミュレーションゲームを体験し、大いに盛り上がりました。

● 7/11 マードック大学教員による公開講座

マードック大学の学生を引率してきた岡本洋平先生による公開講座が行われました。学生自らSNSなどを使って広報活動を行い、当日の司会も学生が担当。全編英語で行われた講義に、学生たちは熱心に聞き入っていました。



- ① 小樽運河に寄りました
- ② ウェルカムレセプション
- ③ 茶道体験
- ④ 生花体験
- ⑤ マードック大学教員による公開講座





● 7/13 北海道の観光資源を見学

北海道博物館で学芸員から英語で説明を受け、アイヌ文化について学びました。その後バスで旭川へ移動し、大雪の森ガーデンを訪問。近年北海道で注目が高まるガーデンツーリズムを学びました。



● 7/14～18 天塩町でのフィールドワーク

道北の天塩町で3泊4日のフィールドワークを実施しました。マードック大学の学生とともに本学学生もホームステイしながら天塩町の方々と交流を深め、地域のツーリズムについて学びました。

滞在中は陶芸や絵手紙、着物の着付けなどを体験したほか、天塩厳島神社例大祭にも参加しました。日本の祭りを体験した外国人学生は大喜び。本学学生にとっても、札幌にはない地域の文化や人のつながりを実感できる機会となりました。



● 7/21 洞爺湖バスツアー

最後のプログラムは洞爺湖へ。洞爺湖ビジターセンター・火山科学館でジオパークについて学び、昭和祈山を見学しました。



- ⑥ 旭川大雪の森ガーデンにて
- ⑦ 天塩町の方々と交流
- ⑧ カヌーツーリング大会ボランティア
- ⑨ 倶知安高校ESS部との交流
- ⑩ Farewell party

新たな学びの扉を開くきっかけに



短期大学部 英文学科1年
たけうち しおり
竹内 詩織 さん
札幌新川高等学校 出身

天塩町では地元の方々に温かく迎えていただき、マードック大学の学生と一緒にホームステイしてお祭りにも参加しました。伝統あるお祭りを地元の方が大切に思い、次世代に残すために真剣に取り組んでいることを実感。その一方で、天塩町にはホテル等の宿泊施設があまりないことを知り、宿泊施設の充実が課題と感じました。マードック大学の学生と仲良くなりましたが、英語力はまだまだ。高い英語力と広い視野を身につけて、後志総合振興局が実施する「ニセコ留学」への参加を決めました。新たな学びの扉を開くきっかけをくれた天塩町の体験に感謝です。

外国人を迎える観光地のあり方とは？



短期大学部 英文学科2年
ささき なな
佐々木 菜那 さん
千歳高等学校 出身

留学経験があるため英語の会話はスムーズでしたが、博物館の英語の解説が少なく質問攻めにあたり、お店に英語を話せるスタッフがらず仲介役を務めることもしばしば。海外では当たり前前のヴィーガン(完全菜食主義者)向けメニューを探すのも難しく、外国人を迎える観光地のあり方を考える場面が多々ありました。卒業後はカナダ留学の予定。さらにニュージーランドで観光を学び、大好きな北海道で観光に携わりたと思っています。理想は、日本の良さと外国人のニーズを両立させるホスピタリティ。観光を軸としたまちづくりにも興味が湧いてきました。

会話への苦手意識を克服しました！



短期大学部 英文学科1年
やまうち ひろみ
山内 裕美 さん
札幌国際情報高等学校 出身

修学旅行先のハワイで単語しか言えない自分がもどかしく、英語が上達したくて北星へ。今回のプログラムを知り、間違いを恐れずにやってみようと思いきって参加しました。英語ガイドでは英語の文章を暗記して行きましたが、身振り手振りの連続。おみくじの説明を求められた時は困りました。それでも授業で学んだ日常会話に役に立ってすっかり仲良しに。暗記ではなく相手を思うことで心が伝わるんですね。会話への苦手意識が薄れ、2月にニュージーランド短期留学に行こうと決めました。来年もこのプログラムに参加して成長を実感できるよう、たくさん勉強していきます。



フットサルで北海道から世界を目指す。

短期大学部生活創造学科2年

山本 楓果 さん

江別高等学校出身

フットサルは室内で行われるサッカーに似た競技。北海道でもプロフットサルチーム「エスポラーダ北海道」をはじめ多くのフットサルチームがあります。女子にはプロリーグがありませんが、フットサルへの情熱は男子にひけをとりにません。本学在学生の山本さんは女子フットサルチーム「エスポラーダ北海道イルネーヴェ」のゴールキーパーとして活躍中。昨年8月にはチーム初の日本代表に選出され、ポルトガル遠征にも参加しました。

短大入学を機に サッカーからフットサルに転向

サッカーを始めたのは小学校3年生の時。5年生から少年団に入って本格的に取り組み始めました。女子は私ひとりで、男子に負けたくなくて必死で食らいついてはコテンパンにされる日々。その頃から負けず嫌いな性格でした。

中学から地元の女子サッカーチームに入団し、ゴールキーパーになりました。高校では全日本女子選手権に2年連続出場しましたが、私はキーパーとしては小柄だったので、高校卒業を機にサッカーはやめようと思っていたんです。でも「楓果からサッカーを取ったら何も残らないよ」という母の言葉が心に刺さり、思い出したのが中学時代に日本女子フットサル大会で準優勝したこと。ゴールの小さいフットサルなら小柄な私に向いているかもしれないと考え、短大入学と同時にイルネーヴェに入団しました。

持ち味を評価され、念願の日本代表に選出

入団1年目は日本リーグで完敗、個人的な目標だった代表入りも果たせず悔しい1年となりました。北海道で上位でも全国レベルには及ばないと痛感し、2年目から自主トレを増やし、8月に女子日本代表入りが決定。あとで知ったのですが、代表チームの監督が道内の試合に出場していた私を見て、誰よりも声を出して味方を奮い立たせるプレーを評価してくれたそうです。うれしい反面、今の実力でついていけるのか不安でいっぱいでした。

代表チームに合流後、初日からレベルの高さを実感。その一方で対応力の高さが自分の良さだと気づき、強化ポイントを明確にした上でポルトガル遠征に臨むことができました。現地チームとの親善試合では体格も技術も段違いで完敗でしたが、海外での実戦を経験できたことは結果以上に得るものがありました。

社会人になってもフットサルを続けたい

短大の2年間は代表チームやイルネーヴェの遠征もありましたが、授業はきちんと出席しました。生活創造学科にはいろいろな学びの選択肢があり、私は情報システムゼミでプログラミングを学んでいました。卒業後も働きながらフットサルを続けたいと思っていたので、ビジネスで役立つパソコンスキルを習得できてよかったと思います。

フットサルは一般的にはあまり知られていませんが、サッカーよりも展開が早く、得点差がついても最後まで結果がわからないのが面白い所。これからも常に日本代表を視野に入れ、上を目指して頑張りたいと思います。まずは5月開催のAFC女子フットサル選手権出場が目標です。

※AFC：アジアサッカー連盟（Asian Football Confederationの略称名）



イルネーヴェのチームメイトとともに。集合写真はいつも後列右端が山本さんの定位置！



昨年のスポーツフェスティバルでの1枚。山本さんが所属する情報ゼミは3位に入賞しました！

Featured Faculty Member

文学部英文学科

トムソン・ロバート・ジョン 先生

先生たちの その素顔

PROFILE

1999年 University of Canterbury College of Arts 卒業
2009年 Laidlaw College Department of Theology 卒業
2011年 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院
国際広報メディア修士課程修了
2013年 北海道大学大学院文学研究科人間システム科学 博士課程修了
日本学術振興会特別研究員、北海道科学大学非常勤講師等を経て
2017年4月より北星学園大学文学部英文学科専任講師。



■ スケートボードの旅でギネス記録を達成！

トムソン先生の経歴はとにかくユニーク。ニュージーランドで生まれ、13歳の時に日本人の転校生と仲良くなって日本に興味を抱き、2度の日本留学を経て大学卒業後に来日。大分・福岡と2つの職場を経たのち日本を飛び出し、なんと自転車とスケートボードで世界を一周！この時スケートボードで移動した12,159kmは「スケートボードによる最長の旅」としてギネス記録に認定されています。2年半の旅を終えたトムソン先生、今度は大学院進学のため名古屋へ。しかし夏の猛暑と都会の喧騒に耐えかねて、涼しくて自然いっぱいの北海道へやって来ました。トムソン先生のお話を伺っていると、地球が小さく思えてきてしまいます。

■ 欧米人と日本人、ネットの世界でどう違う？

トムソン先生は2017年春に本学文学部英文学科の専任講師に着任。比較文化心理学の視点に基づく情報メディア研究を行っています。例えば「SNS利用者の個人情報に対するプライバシー意識は欧米と日本でどう違うのか」「人間関係を広げることに抵抗が少ない欧米人と、一度築いた関係を長く維持したがる日本人では、ネット上の振る舞いにどんな違いがあるのか」など。授業はもちろんすべて英語です。「北星の学生はとにかく前向きで教えやすい。英語で学ぶことを喜んでいるのが伝わってきます。キャンパスに温かさや優しさを感じるの、キリスト教の精神が関わっているのかもしれないですね」と、北星の印象を語ってくださいました。

■ 北海道のワイルドな楽しみ方を世界へ発信

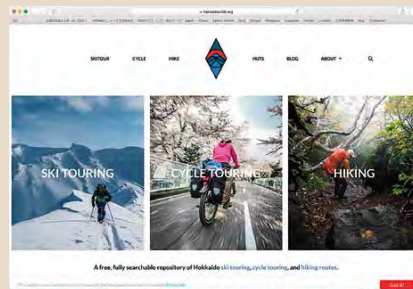
研究職に就いてから長旅は難しくなりましたが、トムソン先生の好奇心は衰えを知りません。北海道の山々をバックカントリースキーで駆け抜け、大地を自転車で巡った経験を活かし、外国人向けにお勧めのツアールートや、北海道の山岳安全情報を紹介するウェブサイト「The Hokkaido Wilds」を昨年11月にリリース。3カ月間毎朝4時半に起床し、出勤前にコツコツ作業して作ったサイトは今も進化中です。「これからはハイキングの情報をもっと充実させたい。大雪山縦走5日間コースにもチャレンジしたいですね」とのこと。世界から北海道へ舞台を移し、トムソン先生のアドベンチャーはこれからも続いていきそうです。



中国西部のゴビ砂漠をスケートボードで横断するトムソン先生。カザフスタンの国境から上海まで、世界初のスケートボードによる中国横断となった。



札幌と小樽の間に位置する塩谷丸山を山スキーで登るトムソン先生。装備や経験は必要だが、札幌周辺でも気軽に登れるスキー登山ルートが多数。



臨場感あふれる写真の数々も見応え十分のウェブサイト「The Hokkaido Wilds」<https://hokkaidowilds.org/>

地域で紡ぐ豊穡のサイクル。 「余市SAGRA」の挑戦。

「余市SAGRA」オーナー

むら い ひろ と
村井 啓人 さん

1999年北星学園大学経済学部経営情報学科卒業

かつて札幌で人気を誇ったイタリアン「Sagra」。オーナーシェフの村井さんは2017年に家族で余市町に移住し、「余市SAGRA」として新たな一歩を踏み出しました。山海の恵み豊かな新天地で、地域の未来を見つめる村井さんの挑戦が始まっています。



産地で店をやりたくて、札幌から余市へ

学生時代は好きなテニスに打ち込み、部活やゼミの仲間、親身に相談に乗ってくれる先生にも恵まれた4年間でした。実家が飲食店だったので自分も料理人を目指し、卒業後はイタリア料理店に就職。イタリア修業を経て2006年に札幌で「Sagra」をオープンしました。常連にも恵まれましたが、転機となったのが赤井川村・赤木さんのホワイトアスパラとの出会い。これほどの味を生み出す農業に魅了されました。やがて産地に腰を据えて店をやりたいと思うようになり、2017年に赤井川村の隣町である余市町に移住。ロカンダ(宿泊施設を備えたレストラン)として新たに出発しました。札幌から離れた今でも学生時代の友人や先生が来てくれてありがたいですね。つくづく人は財産です。

余市で気づいた「地域循環」の可能性

余市のある後志エリアは豊かな海と大地があり、意欲ある若手農家やワインナリーも多く、移住は大正解でした。いま店で使う食材は、オリーブオイル以外はすべて後志産。産地を限定すると必然的に食材の選択肢も限られますが、その分アイデアを駆使して料理と向き合い、食材を使い切ることに力を注ぐようになります。魚とフルーツの組み合わせや手作り魚醤、生ゴミで作る有機肥料など、すべて札幌では考えもしなかったことばかりです。余市に来て驚いた

のが、規格外で廃棄される農産物の多さ。それらを譲り受けてフルーツビネガーを作ったり、酵母を起こしてパンを焼いたりするうちに、「地域循環」を強く意識するようになりました。今まで廃棄していた農産物を商品として活かせば小さな畑でも利益を生み出せるし、小規模ゆえに世話がしやすく農業の使用量が減ってコストも下がり、次世代に引き継いでいける。そうなれば人間・自然・地域すべてに良い作用が生まれるはず。余市には地域循環のモデル地域になれる可能性があると思っています。



料理とともにワインを。ゼロ特区への挑戦

去年の春、店の敷地内にブドウの木を1200苗植えました。余市には地域内で醸造したワインをその場で提供できる「ゼロ特区」という制度があるんです。料理とともにワインを楽しんでもらうのは「余市SAGRA」だからできること。樽1本取るのに5年のはかりそうですが、この土地で育った農作物が料理やワインになってテーブルに並ぶ価値を伝えたい。「余市SAGRA」が地域循環を体現する場となり、余市に興味を持って訪れてくれる人が増えればうれしく思います。



靴を脱いで上がるレストランは、気のおけない友人宅のようなくつろいだ雰囲気。



宿泊は1日2組のみ。漆喰と木のぬくもりに包まれる空間にはテレビも時計もない。



昨年は天候に恵まれずブドウの生育は今ひとつ。焦らずじっくり大地と向き合っていく。



後志の山海の恵みと料理人のイメージーションが出会い、ここにしかない美味を生む。

母校に同窓生が集合！ 北星の輪が広がる「ホームカミングデー」

Home Coming Day



10月20日、大学と短期大学部の同窓会定期総会・懇親会の日程に合わせて、北星学園大学 大谷地キャンパスにてホームカミングデーが開催されました。これは同窓会と大学の共催によるもので、本学初の試みです。当日は100名以上の同窓生が母校を訪れ、仲間との再会を喜び合いました。

50周年記念ホールでは大坊郁夫学長による記念講演「つなぐと未来が見えてくる—同窓会と大学の縁—」が行われました。学園の歴史を辿るプレゼンテーション画像は、すべて大坊学長が自ら昔の資料を探したり、膨大な記録写真の中から選んで作成。大谷地へ移転した当時のプレハブ校舎、学内の「喫茶レインボー」で談笑する学生たちなどの写真がスクリーンに映し出されるたび、会場からは懐かしそうな声が上がりました。

食堂では往年の人気学食メニュー「オレンジランチ」が復活したほか、チャペルではパイプオルガン演奏会を開催。後輩にあたる在学生の案内での学内見学も行われ、北星らしさが詰まった企画の数々に、同窓生の皆さんも大喜びでした。

50周年記念ホールでは大坊学長による記念講演のほか、大学サークル「演舞同好会」のパフォーマンスが披露されました。



久しぶりの学食に同窓生の皆さんも楽しそう！学生気分に浸っておしゃべりが弾みました。

チャペルのパイプオルガンは同窓会および大学後援会からの寄付によるもの。聴衆は荘厳な音色に聞き入っていました。



大学と同窓会の絆を深めるきっかけに



北星学園大学
学長
だい ぼう いく お
大坊 郁夫

本学初のホームカミングデーは、同窓会のコミュニケーションをいっそう活性化するとともに、大学のさらなる発展に向けて同窓会との相互支援を深めていくことを目指して実現しました。キャンパス内で開催することで、同窓生の皆さんには北星の「いま」を感じていただければ幸いです。また、同窓会には奨学金や寄付など大学教育の充実に寄与していただいております、在学生にもそうした支えのもとで学んでいることを知る機会になればと願っています。

北星の誇りを改めて実感した一日でした



北星学園大学同窓会
会長
まつくら ち へる
松倉 千春 さん
1969年
文学部社会福祉学科卒業

本学は1963年に南5条校舎が火災で焼失し、翌年大谷地に移転しました。プレハブの仮校舎を知る世代としては、立派になったキャンパスを見るにつけ感慨もひとしおです。移転後に建築されたチャペルは昔も今も北星のシンボル。パイプオルガン演奏会に足を運ばれた方々は、北星の誇りを改めて実感されたのではないのでしょうか。今後もホームカミングデーの継続開催を視野に入れ、同窓会としても星学祭などに積極的に関わっていきたいと思っています。

期を超えた絆を受け継いでいくために



北星学園大学同窓会
幹事
なか むら かず ひろ
中村 一寛 さん
1971年
経済学部経済学科卒業

私は7期生で、松倉さんとは軽音楽部や男子寮の先輩・後輩の間柄。小さな大学だから先生も学生も顔見知り、大学全体が強い絆で結ばれていました。そうした気風こそ、今も変わらぬ北星の魅力だと感じています。同窓会の7つの支部も活発に活動しており、本部としても同窓生同士の交流が広がることはうれしい限り。期を超えた交流や在学生との接点を望む声も多いので、ホームカミングデーが母校に集まる機会として定着していけばいいですね。

本学では、学生はもちろん保証人や地域のみなさまにも有意義な取り組みを多彩に展開しています。2018年度後期に実施した事業や活動の一部をご紹介します。

[経済学部経済学科・野原ゼミ]

循環型農園「エコファーム」の取り組みが実を結びました



ゼミ長
経済学部 経済学科 4年
伊藤 圭一郎 さん
立命館慶祥高等学校 出身

経済学科の野原克仁准教授(環境経済学)のゼミでは、3年前から循環型農園「エコファーム」に取り組んでいます。これは学食から出る残飯や野菜くずを堆肥にして畑を作り、採れた野菜を学食に提供することで循環型社会の形成を学ぶもので、大学グラウンド横の空き地を利用してスタートしました。野原先生は「建物の跡地だったので、土を掘るとコンクリートの塊や大きな石がゴロゴロ。学生たちは休日返上で整地や堆肥作りに奮闘しました」と振り返ります。

エコファームは先輩から後輩へ受け継がれ、今年はミニトマトやキャベツ、キュウリなど9種の野菜を栽培。学食でさまざまな料理が提供されました。ゼミ長の伊藤圭一郎さん(4年)は「友人から『おいしい』と言ってもらってうれしかった。廃棄物が堆肥となって野菜が育ち、自分たちの食事となるサイクルを肌で実感し、循環型社会の一端にふれた思いです」と語ります。

環境経済学の観点からも、キュウリとトマトは市場価格より高いという推計結果が。野原ゼミではこうした一連の取り組みを研究論文にまとめ、10月の全国学術大会(東京)で発表しました。野原ゼミでは今後、エコファームに再生可能エネルギーや雪氷熱エネルギーなどを取り入れた研究も視野に入れています。



循環型農園「エコファーム」で手塩にかけた野菜のおいしさはひときわ!

[短期大学部英文学科]

ディズニーワールドと連携した「バレンシア国際カレッジプログラム」に本学学生が2名合格しました

合格者の声

短期大学部英文学科では2018年度より、短期大学としては全国初のディズニーワールドとの連携による「バレンシア国際カレッジプログラム」を開始しました。これは、米国フロリダ州のバレンシア・カレッジの科目を履修しながら、ディズニーワールドでインターンシップを行うビジネス・マネジメントプログラム。世界中から集まる受験者の中でも、高い英語力と優れた資質を有する学生だけが選ばれる狭き門ですが、本学から2名の学生が見事合格を果たしました。2人は2月に渡米し、ディズニーのインターン専用学生寮で世界各地の大学生とともに7カ月間を過ごします。

英語力に加えてビジネススキルも身につけたい

ディズニーでの学びは将来の力になると思います



短期大学部 英文学科 1年
小川 菜々子 さん
遺愛女子高等学校 出身

高校時代に英語ボランティアをしていて観光に興味を持ち、ディズニープログラムに参加したくて北星に入学。ホームステイではなく他国の人と一緒に暮らし、働けるのが魅力でした。Versantと呼ばれる英語力テストや、ディズニー担当者による英語での面接などは大変でしたが、スキルも習得できました。現地では勉強やインターンシップに加えてボランティアにも参加し、帰国した時に成長した姿を見せられるよう頑張ります。



短期大学部 英文学科 1年
滝澤 茜 さん
札幌国際情報高等学校 出身

書類審査から英語力テスト、スカイプ面接、英語による最終面接まで多くのステップがあり、前例がない試験のため受験対策にはとても苦労しました。最終面接に残った1年生は私たちだけで緊張しましたが、笑顔と熱意で合格を勝ち取りました。テーマパークとしてのディズニーは特別な存在。母国語が異なる仲間との交流やディズニーのホスピタリティを学ぶ経験は、きっと将来の大きな力になると思います。

今こそ!

北星に行こう!!!!

本学では、学生が学部・学科の枠を超えて受講でき、一般の方にも受講していただける「北星オープンユニバーシティ」を開講しています。前号は一般の方に人気がある「外国語」を紹介しました。今回は在学生に人気のWord・Excel 2016 スペシャリスト集中講座※を紹介します。講師である富士通エフ・オー・エム株の方に学生広報委員がインタビューし、講座の内容や授業の魅力をお聞きしました。

※この講座は在学生限定となります



講師の方にインタビュー!



本学で在学生向けの「Word・Excel 2016 スペシャリスト集中講座※」を担当していただいている富士通エフ・オー・エム(株)に伺い、講師の菊池文子さんと営業担当の三木祥士さんにインタビューさせていただきました。この集中講座は3日間受講し、1週間後にMOS(マイクロソフト・オフィススペシャリスト)の資格試験に挑戦するものです。今回は受講する際のポイントと人気の秘密についてお聞きしました。

菊池先生の集中講座は、初回で受講者一人ひとりのレベルを知ることから始まります。そして講義に加えて模擬試験を数回実施し、

資格試験合格のポイント

理解が足りない部分を把握・強化した上で試験本番に向かわせます。この「わからない」を把握することがとても大切だそうです。資格試験の内容は年々実用的になっており、一つわからないことがあると関連した問題も解けなくなってしまうそうです。そのため理解を進める事後学習がポイントだと菊池先生はおっしゃっていました。三木さんによると、2018年の菊池先生開講講座による資格試験の合格率は100%! しかも、得点も高いそうです。菊池先生は授業を進める際、合格だけを目的ではなく、受講者が「根拠をもって操作・選択し、正確に実行できるようになること」を心がけているとのことでした。

Excel・Wordの資格は日本のみならず世界中で認められているので、就職の際には有利になると三木さんはおっしゃっていました。さらに試験の受験料が含まれた受講料になっているため、おのずと受験のモチベーションがアップします。在学生に人気なのもよくわかりますね!



※Word 2016 スペシャリスト集中講座とExcel 2016 スペシャリスト集中講座として別々に開講されています。

北星オープンユニバーシティとは?

今号で紹介した「Word・Excel 2016 スペシャリスト集中講座」は在学生対象の講座ですが、「北星オープンユニバーシティ」は在学生や卒業生だけでなく、一般の方も受講できる講座が多数あります。年間で前期(5月~9月)と後期(10月~2月)の2期に分かれており、さまざまな講座を実施しています。英会話やスペイン語、中国語などの語学講座や、ビジネスに着眼した内容の講座、キリスト教を学べる講座もあり、学生のみならず一般の方も充実した学びができる講座を揃えています。皆さんも是非受講してみませんか? 北星オープンユニバーシティについては、社会連携課までお問い合わせをお願いします。詳しくは下の欄をご覧ください。

受講生の声



経済学部 経済学科3年
しちのへ まさ こ
七戸 雅子さん
札幌光星高等学校出身

大学入学までパソコンを操作する機会が少なかった私にとって、大変役立つ講座でした。自学自習ではうまく操作することができず、資格試験に合格するレベルまで到達できそうにありませんでした。講座では講師の方が親身な対応で丁寧に教えてくださり、間違いを恐れず確実に学ぶことができました。実践的な方法を集中して教えてもらったため、効率的にスキルを習得できたと思います。通年の講座もありますが、集中講座は長期休暇中に行われるので集中して学ぶことができ、スケジュールが組み立てやすく個人的にお勧めです。資格試験についても丁寧に説明してもらえるので、当日安心して受験でき、無事合格することができました。

社会連携課(C館1階)
電話 / 011-891-2731 (代表)
平日 / 8:45~17:00 (11:30~12:30を除く)
土曜・日曜・祝日 / 休み
申込方法: ウェブサイト
<http://www.open.hokusei.ac.jp/>
または電話





TOPICS

北海道後志総合振興局と短期大学部が
「グローバル人材育成に係る連携協定」を締結しました

北星学園大学短期大学部は、かねてよりニセコ町でのインターンシップやボランティア活動、英語教育やグローバル人材に関する研究会などを実施してきました。こうした実績に基づき、2018年7月に後志総合振興局と本学短期大学部との間で「グローバル人材育成に係る連携協定」を締結する運びとなり、同月23日に調印式が執り行われました。

後志総合振興局長・勝木雅嗣氏は「道内のグローバル化が加速化する中、本協定をきっかけにグローバル人材の育成に向けた連携を進めていきたい」と述べられました。

大坊郁夫学長も短期大学部英文学科と後志総合振興局によるこれまでの連携活動を紹介し、「本協定によって学生にさまざまな学習機会が与えられ、グローバルな視点を持って地域で活躍する人材育成につながることを期待したい」と述べました。

北星学園大学短期大学部ではこの協定締結を契機に、後志総合振興局主催の「ShiriBeshi留学」※への学生派遣の拡大、地域での共同事業・研究などの連携をさらに深め、これまで以上にグローバル人材育成に取り組んでまいります。



勝木局長(右)と大坊学長が今後の連携強化を確認

※ShiriBeshi留学(通称:ニセコ留学)

後志総合振興局では、外国人の観光客や住民が多いニセコ・ルスツ・キロロなどで英語トレーニングと地域交流のパッケージプログラムを企画・実施しており、これまでに本学学生も複数参加しています。

北星学園大学オリジナルグッズが当たる！

まちがいさがしクイズ

北星学園大学の構内を紹介する2枚の写真を見比べて、右の写真の5個の間違ひを探してください。ハガキに答えを記入して応募すると、抽選で10名様に北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス！

[今号のまちがいさがしスポット]
ラーニング・コモンズ

センター棟の2階には、学生の多種多様な学習スタイルに対応する「ラーニング・コモンズ」が設置されています。学習支援を行う学習サポートデスクスタッフや北星ピア・サポーター(学生を支援するための学生)が常駐しています。



★応募要項

ハガキに以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

①問題の答え(まちがい5個) ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤電話番号 ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想
送付先:〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係
2019年3月4日(月)必着

★正解発表

『HOKUSEI@COM』27号(2019年8月発行予定)に掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。
※正解者の中から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。
※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

[前号の正解]



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

発行／広報委員会
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL 011-891-2731(代表)
URL <http://www.hokusei.ac.jp>
E-mail koho@hokusei.ac.jp

